

(抜粋・要約)

◇方 法

◇研究デザイン, 設定, 参加者

ベイズ法のランダム効果によるメタアナリシス手法を用いて, COVID-19入院患者の治療におけるコルチコステロイドおよびレムデシビルの臨床試験データに対し, 確率的再解析を行った。WHOが実施した既存のメタアナリシス^Aから試験を特定した。

◇主要評価項目

両薬について, 酸素補充の必要性にもとづいた患者サブグループ別に, 対照群との比較による死亡の絶対リスク低下の事後確率を計算した。死亡の絶対リスクを1%以上, 2%以上, および5%以上低下させる確率を定量化した。

◇結 果

人工呼吸を必要とする患者において, 死亡の絶対リスクを低下させる確率が, レムデシビルでは4%であったのに対し, コルチコステロイドでは93%であった。酸素補充が必要な患者においては, 死亡の絶対リスクを低下させる確率は, レムデシビルで81%であったのに対し, デキサメタゾンでは93%であった。最後に, 酸素補充を要しなかった患者では, 死亡の絶対リスクを低下させる確率は, レムデシビルで29%, デキサメタゾンで4%であった。

◇結論と関連性

ベイズ法を用いた結果, レムデシビルは, 酸素補充を必要とする(人工呼吸は不要)患者を除き, 死亡率について臨床的に意味のある低下をもたらす確率が低かった。コルチコステロイドは, 酸素補充, 特に人工呼吸を必要とする患者にとって有望性が高かった。より決定的な試験を待つ間, エビデンスのこの確率論的解釈は, 臨床医による治療法決定のみならず, ガイドラインや政策の立案者にとっても, 指針として役立つであろう。

^A SOLIDARITY 試験